学校法人志學館学園
鹿児島女子短期大学
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日

財団法人短期大学基準協会

鹿児島女子短期大学の概要

設置者	学校法人 志學館学園
理事長名	志賀　壽子
学長名	辰村　吉康
ＡＬＯ	後藤　廣文
開設年月日	昭和４０年４月１日
所在地	鹿児島県鹿児島市紫原１丁目５９番地１号

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
児童教育学科	初等教育学専攻	50
児童教育学科	幼児教育学専攻	190
生活科学科	生活科学専攻	40
生活科学科	生活福祉専攻	60
生活科学科	食物栄養学専攻	100
教養学科		80
	合計	520

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	児童教育専攻	30
専攻科	生活科学専攻	10
専攻科	食物栄養専攻	10
	合計	50

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

鹿児島女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

１．総評

平成 19 年 6 月 27 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

建学の精神・教育理念は確立し、教職員・学生・保護者・受験予定者にも明確に示されている。教育目的・教育目標は、毎年、学科・専攻会議で点検し確認している。

建学の精神・教育理念が反映された教育課程を編成し、教養教育を重視した取り組みを行い、授業形態のバランスも良く選択科目も多い。教育課程の点検・見直しも行われている。各学科・専攻ともに免許・資格が取得できる機会を提供している。

教育の実施体制については、専任教員数、校地・校舎とも、短期大学設置基準を満たしている。図書館は蔵書数、学術雑誌数、AV 資料数、座席数は整備され、学内外への情報発信も活発である。

教育目標と教育効果についてみると、全国平均と比較して退学率・休学率が低く、各学科・専攻ともに資格の取得率が高く、専門就職率も高い。就職先・編入学からの評価は高く、きめ細かな教育の成果の現れであると考える。

入学志願者には「大学案内」などにおいて、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標、求める学生像を明示し、ガイダンスも入念に行われ、履修要項（シラバス）や補足資料もそろっている。学生のメンタル・ケアやカウンセリングの体制は整備されている。

研究に対する取り組みは、学生の教育を優先としているが、研究活動はおおむね活発である。研究発表をする機会は「鹿児島女子短期大学紀要」と「南九州地域科学研究所」の『所報』があり、教員の研究室は個室が整備されている。

社会的活動は、地域に貢献する有能な人材の育成という建学の精神から、活発に活動している。公開講座、生涯学習講座、講演会、地方行政、市民講座にも参加し、鹿児島海上保安部、JA、鹿児島県中央保健所にも協力している。またボランティア活動も活発である。

理事会、評議員会、教授会は寄附行為、学則にのっとり運営されている。常務会を置き、理事長・学長のリーダーシップが発揮されている。事務組織は規程類にしたがって運営されている。理事長・理事会と教職員の関係は協力体制をとり、良好な関係にある。

財務については、やや課題はあるものの、負債比率や流動比率の財務比率及び教育研究経費比率については改善されている。

毎年、自己点検・評価し、「事業報告書」を作成している。自己点検・評価には、全教職員が何らかの面でかかわっている。

２．三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実を図る観点から、本協会は以下の見解を持つ。

（１）特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅱ　教育の内容

○　鹿児島に根ざした「地域活性化の担い手」を育成するための基礎教育プログラム「WE LOVE 鹿児島！プロジェクト」（平成 17 年度、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に選定）を開発・実践しており、学生の大半が鹿児島県内に就職する当該短期大学には、鹿児島を愛し、豊かにすることのできる人材の育成が期待されている。

○　授業改善策を推進し、より迅速で効果的な学生へのフィードバックを目指した「学生による授業評価におけるフィードバック・システム」（文部科学省「平成 19 年度教育・学習方法改善支援」の補助金対象となっている取り組み）を導入している。

○　インターンシップを一般教養科目として、各学科の学生を対象に 1 年前期に開講している。授業で、研修先の希望調査・マッチング・事前指導・事後指導を行っている。60 ケ所に及ぶ研修先の訪問は、就職指導部会の教員及び学生支援課が担当し、研修期間中の学生指導や企業からの情報収集にあたっている。評価は、研修の記録・レポート・プレゼンテーションで行っている。

評価領域Ⅳ　教育目標の達成度と教育の効果

○　就職希望者 90 パーセントのうち 95 パーセントが就職しており、資格の取得率も高く、専門就職率も高い。目標としている資格を取得し、専門を生かした就職ができていることに、学生の満足度は高い。

評価領域Ⅴ　学生支援

○　当該学園独自の奨学金制度・減免措置として、志學館学園奨学生、志學館学園利息給付奨学制度、志學館学園第一種特待生、志學館学園第二種特待生、長子等減免の 5 種類

が用意されている。また、社会人入学生の入学金を半額に設定している。休学者・退学者を減らす工夫として、未修得単位 10 単位以下の留年者の授業料を科目数単位で設定、教育充実費も安く設定している。

評価領域Ⅵ　研究

○　鹿児島という地理的特性を生かし、南九州における人文・社会・自然諸科学に関する調査研究を促進し、地域社会の暮らしと文化の向上に資することを目的として、昭和 57 年、「南九州地域科学研究所」を設置し、年に 1 回、『所報』を発行している。半数は当該短期大学の専任教員を含む共同研究を原則とすることなど、研究の幅を広げている。

評価領域Ⅶ　社会的活動

○　地域との密着度の高い当該短期大学の特徴が発揮されており、全学的にも、学科・専攻単位でも、当該短期大学の使命である教育・研究・地域貢献の中で、地域貢献が十分に実現されている。

評価領域Ⅷ　管理運営

○　理事長・学長と教職員、教員と事務職員が、相互の立場を尊重し、連携し、協力する体制ができている。「FD 小委員会」の構成員には事務職員も入っている。学校法人の管理運営は、学園全体として、教経一体、教経協働の方針の下で、中期経営計画の実現に向けて、理事長・学長がリーダーシップを発揮している。

（２）向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅵ　研究

○　研究活動に消極的な教員が散見されることから、今後の研究活動の活性化への工夫が望まれる。

評価領域Ⅷ　管理運営

○　教授会の下に組織されている各種委員会の規程について点検及び整備することが望まれる。

評価領域Ⅸ　財務

○　短期大学部門及び学校法人全体が支出超過であり、負債もあるので、財務体質改善が望まれる。

（３）早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

３．領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ　建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ　教育の内容	合
評価領域Ⅲ　教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ　教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ　学生支援	合
評価領域Ⅵ　研究	合
評価領域Ⅶ　社会的活動	合
評価領域Ⅷ　管理運営	合
評価領域Ⅸ　財務	合
評価領域Ⅹ　改革・改善	合

評価領域Ⅰ　建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「時代に即応した堅実にして有為な人間の育成」という建学の精神及び「人格の完成をめざす人間教育」という教育理念を持ち、教職員・学生・保護者・受験予定者にも明確に示されている。14 ページに及ぶ冊子「学校法人実践学園（現：志學館学園）建学の精神」に、学園創設以来、現在に至るまでの状況が記載され、改組転換や併設四年制大学の男女共学化を契機に、見直しも図られている。「学校法人実践学園建学の精神」は教職員に配布されている。

教育目的・教育目標は、毎年、学科・専攻会議で点検し、教職員が確認している。見直し・点検は、学長・副学長・学科長・学生部長・教務部長・図書館長・事務局長で構成される運営会議で検討し、教授会で審議した後、最終的に、理事会で承認を得ている。学生便覧にも掲載し､入学後のオリエンテーションや学外研修の期間に学生に周知させている。

評価領域Ⅱ　教育の内容

建学の精神・教育理念が反映された教育課程を編成し、教養教育を重視した取り組みもされている。専任教員の担当科目も多く、教育課程の点検・見直しも行われている。

全学科・専攻とも、資格・免許が取得できる機会を提供している。授業形態のバランスも良く、選択科目も多く、学生に選択の機会を与えており、学生の学習意欲も高い。

履修要項は、学年・学科ごとに A4 版で 1 科目に 1 ページをあて、6 冊分が整備され、担任によるホーム・クラスごとの指導などをとおし学生に懇切に説明している。

学生による授業評価、教員による授業の自己評価を行い、教員は授業改善報告書を提出している。「FD 小委員会」を置き、教育課程の改善・改革の取り組みが全学的に行われて

いる。各学科・専攻会議で、教員同士の意思の疎通や協力体制を築いている。兼任教員との意思の疎通は、個別に行っている。

評価領域Ⅲ　教育の実施体制

各学科・専攻とも、専任教員・助手の数、教授職の数、管理栄養士有資格者の数は、短期大学設置基準及び栄養士法施行規則を満たしている。教員の採用・昇任は規程にしたがって、厳格に行われている。教員は教育を第一の責務とし、教育目標との関連で、教員としての役割を果たしている。校地・校舎とも、短期大学設置基準を満たしている。講義室、演習室、実験・実習室、情報処理関連の教室、LL 教室も整備され、教育の展開のための機器・備品も十分である。運動場、体育館も整備され、安全面も確保されている。図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV 資料数、座席数も整備されている。司書は 4 人である。図書選定・廃棄は規程に準じて行われている。学生用の参考図書もそろい、学生の利用率も高い。学内外への情報発信も活発で、他の図書館との連携も積極的である。図書館として、図書、視聴覚設備、情報処理施設の三つの機能を果たしている。

評価領域Ⅳ　教育目標の達成度と教育の効果

期末試験、レポート、平常点、追・再試などの結果を総合的に評価している。「授業についてのアンケート調査」で、学生の満足度を調査している。学生による授業評価の実施と検証も行われている。各学科・専攻とも、全国平均と比較して、退学率・休学率が低い。各学科・専攻とも、過密な授業にもかかわらず、資格の取得率と専門就職率が高い。

古い伝統と歴史があること、キャリア教育を専門とする教員がインターンシップの指導を担当していることもあり、就職先からの評価は高い。卒業生が就職した職場から繰り返し求人があり、卒業生の社会的評価は良好である。実習連絡会、実習期間中に行う訪問指導、企業訪問を担当する教員、求人開拓をする学生支援課の職員が、卒業生に関する情報を収集している。編入学者はあまり多くはないが、高い評価を受けている。

評価領域Ⅴ　学生支援

建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標、求める学生像は明示されている。入学試験の体制は整備されている。合格者には「合格者の皆さんへ」などを送付している。

入学後のガイダンスは入念に行われ、履修要項や補足資料もそろっている。基礎学力が劣る学生、進度の速い学生には個別に対応している。

保健室相談員、苦情相談員を配置し、学生のメンタル・ケアやカウンセリングの体制が整備されている。クラブ活動・学園行事・学友会を支援する体制も整っている。保健室、学生相談室、食堂、売店、学生寮も整備されている。当該学園独自の奨学金制度が 5 種類ある。

就職支援体制は整っており、就職希望者が 90 パーセント前後で、就職率は 95 パーセントで高い。海外への留学者はいない。進学希望者には個別の指導を行っている。

留学生、障がい者、長期履修学生については該当者はいないが、社会人の科目等履修生は受け入れている。

評価領域Ⅵ　研究

学生の教育を優先し校務に忙殺されているが、全体的には、活発である。教員の研究活動状況は、ウェブサイトに教員総覧の項目を設け、情報を提供している。科学研究費補助金は、過去3ヶ年で、平成19年度に1件採択されている。産学共同開発費は、過去3ヶ年で毎年、受託研究費は、ほぼ3ヶ年に1件採択されている。共同研究の一部は、附属研究施設「南九州地域科学研究所」で行われている。

研究費は規程にのっとり支給されている。教員が研究発表をする機会は「鹿児島女子短期大学紀要」と「南九州地域科学研究所」から発行される『所報』がある。紀要は学術情報として、ダウンロードできる。研究に必要な機器・備品・図書費は整備されている。教員の研究室は個室が整備されている。研修日、研究時間とも、十分には確保されていないが、教員の研究日、長期休暇は、就業規則及び服務規程により保障されている。

研究活動に消極的な教員が散見されることから、今後の研究活動の活性化への工夫が望まれる。

評価領域Ⅶ　社会的活動

地域に貢献する有能な人材の育成という建学の精神から、活発に活動している。社会人を受け入れている。正規の授業公開はないが、公開講座、生涯学習講座を開講している。地域の行政、商工業、教育機関、文化団体などと効果的な交流がある。講演会、地方行政、市民講座にも参加し、鹿児島海上保安部、JA、鹿児島県中央保健所にも協力している。

学生の大半が鹿児島県の出身であり、県内に職を求めている。地域との提携なしには存立しえないという発想がある。全学的な活動として、「WE　LOVE鹿児島！プロジェクト」関連のもの、学友会に関するものがある。ボランティア活動は、県内の幼稚園・保育園・施設などから、夏祭り・運動会・秋祭り・クリスマス会などの季節の行事における依頼が多い。

各学科・専攻の特質から見て、留学生の受け入れ、海外の教育機関との双方向の交流は難しい面があるが、教員の海外派遣・国際会議への出席は多い。

評価領域Ⅷ　管理運営

理事会、評議員会は寄附行為にのっとり運営されている。常務会を置き、将来計画検討会議、運営会議、教授会を経て理事会で決定している。理事長はリーダーシップを発揮している。

教授会は学則に基づいて運営されている。教育研究上の事項は、各学科・専攻で検討し、運営会議を経て教授会で決定している。学長のリーダーシップが発揮されている。

事務組織は管理及び運営に関する規程類に基づき運営されている。スタッフ・ディベロ

ップメント（SD）活動を行う組織はないが、職員の研修・能力開発は、研修会などを実施しており、学外で行われる各種研修に積極的に参加させて、資質の向上に努めている。

理事長及び理事会と教職員の関係は良好である。教員及び事務職員がそれぞれの権限・役割等を十分に認識し、協力体制をとり、良好な関係にある。教職員の健康管理は、労働安全衛生法に基づき、定期健康診断を実施している。就業に関する規程は整備されている。

教授会の下に組織されている各種委員会の規程について点検及び整備することが望まれる。

評価領域Ⅸ　財務

学校法人の経営状況及び財政状態は適正に表示しており、ウェブサイトや学校法人事務局にて、財務情報を詳しく公開している。予算編成体制や財務の事務処理は適切である。

財務体質については、平成 19 年度は当該短期大学、学校法人とも支出超過であるが、これは平成 21 年 4 月に当該短期大学が、廃止した旧高等学校の跡地に移転することから旧高等学校の建物の除却に伴う資産処分損失が含まれているためであり、一時的なものである。また、負債額の多くは建物の増設や土地購入に伴う長期借入金であり、順調に返済している。財政上の余裕度が少なくなっているが、遊休資産の運用財産化が可能な土地を所有している。

今後の消費収支バランスを左右するのは入学者の確保などであり、中期経営計画を立て、その改善に取り組んでいる。

なお、短期大学部門及び学校法人全体が支出超過であり、負債もあるので、財務体質改善が望まれる。

評価領域Ⅹ　改革・改善

自己点検・自己評価に関する規程、運用規則、基本計画により実施している。運営会議構成員からなる鹿児島女子短期大学自己点検・評価委員会を設置し、専門別点検・評価委員会及び自己点検・評価報告書刊行委員会を組織している。各部会・委員会などが年度ごとに点検・評価し、事業報告書を作成、教授会の同意を得て、学園総括委員会に提出している。

自己点検・評価には、全教職員が何らかの面でかかわっている。毎年、事業計画の中に自己点検・評価に関する項目を設け、年度末に点検・評価し、結果を活用するサイクルを継続している。

相互評価・外部評価は行っていない。相互評価や外部評価のための組織・規程などは設けていないが、第三者評価の結果を受けて、改革・改善に向けた真摯な姿勢がうかがえる。